



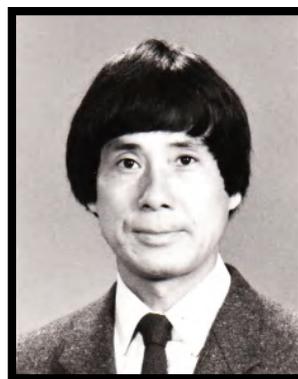
日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.58

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF） 2009年5月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 Tel.047-351-4464 FAX047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp
ホームページ <http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf/>
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

佐藤さん、最高の「サッチモ・ポートレート」をありがとう！

写真家、そして“伝説のプリンター” 故佐藤有三氏を偲んで…

——友子夫人が語るありし日の思い出(1～4面)——



外山喜雄・
恵子夫妻共
著の写真集
『聖地ニュー
オリンズ 聖
者ルイ・アー
ムストロング』
(冬青社刊)

の巻頭を飾ったサッチモ、そしてルシール夫
人とニューヨークの自宅でくつろぐ貴重なポ
ートレート計5点。写真集を手にした方々
は、これらサッチモの何とも人懐っこい笑顔
に心を奪われたことだろう。これらの作品は、
数多くのジャズマンを撮り続けてこられた写
真家、故佐藤有三氏(写真上)の会心のショ
ット。それらがこの写真集の出版にあたって
改めて“発掘”され、いままた佐藤氏の諸作
品に賞賛の声が集まってまっている。これら
の傑作を残された佐藤氏って、いったいど
んな方だったのだろう。前号でもちょっぴり
紹介させていただいたが、友子夫人が我々
とも身近な千葉・松戸市にいらっしゃるので、
「この際、ありし日の思い出など、いろいろと
お伺いしましょう」と、外山夫妻ともども、また
また友子夫人をお訪ねした。(小泉良夫)

国際交流基金から WJF への支援が決定！ (6面に速報)

友子夫人の家庭料理店『アマポーラ』はまさに佐藤氏の個展会場！？

サッチモ、コルトレーン、エリントン、ガレスピー…会心のショット！

“究極のモノクロ”壁いっぱいジャズマンのポートレートが並ぶ

新京成電鉄「常盤平駅」から徒歩3分ほどの線路沿いにあるレストラン『アマポーラ』(松戸市常盤平3-2-14、電話:047-389-2550)。ここが友子夫人と愛娘の真純さんが開いている、おしゃれな可愛らしい家庭料理のお店(11:

30~21:00=月曜と第1、第3日曜日はお休み)。近くには公団住宅「常盤平団地」の棟々が連なり、街路にはソメイヨシノの桜並木が続く。我々がお訪ねした3月24日は、桜見物にはまだちょっと早かったが、外山夫妻は「わーっ、今度ぜひここでお花見がしたいですねえ」。

友子夫人が温かく迎入れてくれたレストラン店内は当然、佐藤氏撮影のジャズ・ミュージシャンのポートレートがずらりと並ぶ。1枚、2枚…35枚！すべてモノクロ。

これらの写真は、いずれも2005年6月、東京・港区麻布十番のギャラリー東京映像で開催された『「ジャズポートレート」佐藤有三』展の秀作を一堂に集めたもの。

「当時一緒にお仕事をしていた会社(ライトパブリシティー)の目羅勝さんが、ちょうど主人が亡くなって10年目に、この写真展を開催して下さったんです。その時の写真をちょっと小さくしてここに飾っています。ええ、主人は、カラー写真はいっさい撮っていないんです。モノクロ写真ばかり」。サッチモ、コルトレーン、エリントン、ガレスピー…。なるほどカラーではとても表現できない、“究極のモノクロ”が際立つ。

(株)ライトパブリシティーで腕を磨く

几帳面さが買われた？面接試験

佐藤氏が当時勤務していた会社は(株)ライトパブリシティー。東京・銀座に本社を置く、日本で初めての広告制作専門の会社(1951年に設立)で、クリエイターの育成に力を注ぎ、篠山紀信さん、和田誠さんら数多くの鬼才を輩出している。佐藤氏もこの社の扉をたたいた。

入社(1959年)の際の面白いエピソードを友子夫人が

披露してくれた。

佐藤氏=1939年(昭和14年)8月28日、東京都品川区生まれ=は、都立工芸高校の夜間で学びながら、(株)細川活版(1955年入社)で印刷の仕事をしていた。その仕

事では飽き足りなかったのか、時代を先取りしていたライトパブリシティーへの入社を決意する。

「面接試験があつて、その面接会場へ入ったら、もう写真機材やら何やら部屋中

に散らかっていたそうです。とても几帳面な性格の主人でしたから、面接の合間にそのあたりを片づけて回ったらいいんです。そんなことで、試験に当たっていた方が『カメラマンの助手としては、もってこいではないか』って。それで採用になったんですって」

CMの仕事の合間にジャズマンを追い

SJ誌など音楽雑誌に作品を持ち込む

几帳面…いや、とてつもなく「きっちりとした仕事ぶり」が、佐藤氏を支えていたに違いない。入社後、東京オリンピックの一連のポスター(共同製作)などで知られる早坂治氏のアシスタントなどを務める傍ら、60年代前半からジャズマンのポートレートなどを撮影、『スイングジャーナル』(以下、SJ誌)などの音楽雑誌に持ち込んでいた。

「あの当時、仕事以外に個人的には何をやってもよかったです。ですから主人もCMのお仕事以外に自分の好きなジャズ、ジャズマンのポートレートの撮影を続けられたんでしょねえ」。こうした会社の理解もあつての佐藤氏だった。

個人的な“芸術的発露”で来日したアーティストを追っていたある日、SJ誌から「サッチモ生誕70周年記念で特集(7月号)を組みたい。ニューヨークの自宅へ廻ってもら



佐藤友子夫人(右)と外山夫妻=「アマポーラ」店内で

えないか。(評論家)野口久光さんが一緒に伺うことになっている」との依頼が来た。佐藤氏は、サッポロビールのコマーシャルの撮影の仕事で、たまたまニューヨークへ出張することになっていた。「ちょうどいい機会。願ってもないこと…」と、きっと佐藤さんは、この白羽の矢が立ったことに歓喜したに違いない。1970年5月のことだった。

**「男は黙ってサッポロ…」の時代
NY行きの白羽の矢が立った!**

当時のSJ誌編集長は、現評論家の児山紀芳氏。友子夫人は、なんとこのSJ誌で仕事をされていた。

「ジャズは高校生のころから聴いていたんです。卒業して編集の専門学校に通うようになった当時、友達のお兄さんがジャズのレコードを沢山持っていて…」と、ますますジャズにのめり込んでいき、ついにはSJ誌に入社。佐藤氏とはここで顔を合わせるようになり、1977年に結婚する。「掲載された写真が1枚800円とか言っていた時代でした」。ちなみにこのSJ誌7月号は定価300円だった。

それにしても、この1970年前半のサッポロビールと言えば、三船敏郎さんをイメージキャラクターに抜擢した「男は黙ってサッポロビール」のテレビCMが一世を風靡していた時代。佐藤氏がそんな時代をときめくサッポロの、どんな仕事でNYまで出かけたのかは、友子夫人には聞かされていなかったようだ。

**自宅療養中のサッチモがそこに…
ルシール夫人とのツーショット!!**

1970年5月15日、佐藤氏は、ジャズ評論の第一人者、野口久光氏(故人)とともにNYクイーンズ区にあるサッチモの自宅を訪ねる。サッチモは当時、体調を崩して自宅で静養中。それでも大分、回復して再起が待たれていた時だった。SJ誌によると、両氏はにこやかなルシール夫人の出迎えを受けてサッチモの待つ2階の書斎へ。野口氏が来意を告げ、お見舞いの言葉を述べると、サッチモの笑顔がはじける。佐藤氏は愛用の一眼レフのシャッターを押し続ける。

「主人は、いろいろと相手に話しかけながらシャッターを

切るというタイプの人ではなかったので、ファインダーをのぞきながら静かにシャッターチャンスをつかっていたんでしょね」と友子夫人。

**SJ誌に写真10枚10ページ特集
佐藤氏に優しく応えた「聖者」**



この10ページにもわたる『SJ誌』(7月号)の特集に掲載された佐藤氏の写真は計10枚。うち7枚にサッチモがとらえられている。いかにも自宅でくつろいでいるといった感じのサッチモの優しく、明るい笑顔…子供にかえったようなはにかんだ表情を見せているものもある。撮影している人の優しい、柔和な性格がサッチモの心

を開き、こんな表情を引き出したに違いない。

「そう、仕事にはとても厳しかったんですが、普段は柔和なやさしい人でしたね」(友子夫人)

これら一連の写真が外山夫妻の写真集をも飾ることにもなり、数多く



すっかりおなじみになった佐藤氏の会心作(上)。愛犬と戯れるサッチモ夫妻= SJ誌の1970年7月号から。下は同表紙



の人たちの心を再び捉える。

まずは、外山夫妻の写真集出版にあたって、これらの作品を薦めてくれた日本カメラの河野和典さん。これを大喜びで受け入れ、自らの写真集の巻頭に載せてしまった夫妻。そして、出版にあたった冬青社の高橋国博社長。表紙デザインの石山

さつきさん、編集の福山えみさん…誰もが佐藤氏の写真に惚れこんでしまった。

「こんなに素晴らしいサッチモの表情をとらえた写真なんて、これまでに見たことがありませんでしたよ」。外山夫妻の写真集を手にしたNYやニューオリンズの人たちが絶賛したのも、決して例外ではなかった。

現地ニューオリンズが飛びつき… NY サッチモハウス博物館も絶賛

現地『サッチモ・サマーフェスト』のポスターやパンフレットの作成に携わっていたアーティストたちの反応も早かった。「ワオ！なんて素晴らしいサッチモなんだ！この笑顔をサマーフェストのシンボルにしない手はないぞ！」。

ポスター、プログラム、パンフレット、Tシャツ、バスのボディ…昨年夏、ニューオリンズ市内は、いたるところにこのデザインがあふれかえった。それらの現地ルポは「会報56号」でお届けした。

波紋はさらにNYへと広がった。野口・佐藤両氏が取材で訪れたサッチモの自宅

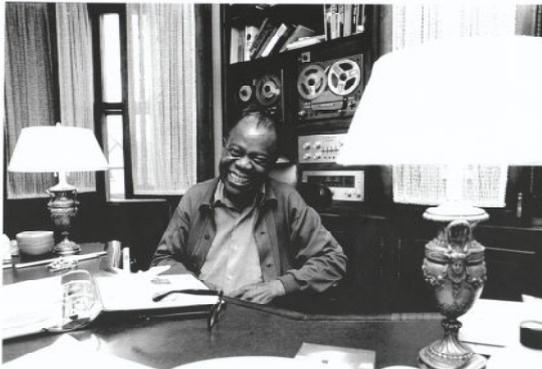
(現在はサッチモハウス博物館として一般公開中)では、マイケル・コグスウェル館長はじめスタッフ一同も、一様に目を見張った。

「ヨシオ！（外山さん）これらの写真がサッチモハウスでも使えるように、なんとか橋渡しをしてくださいよ。こんな願ってもない写真が日本にあったなんて、本当に驚きました」（コグスウェル館長）

外山夫妻の仲介もあって、サッチモハウスでの使用は、友子夫人の快諾を得た。前述の目羅氏の手で六つ切りほどの大きさに焼かれた作品16枚が、海を渡ってサッチモハウスに急送された。

「サッチモが自宅でくつろいでいる写真などは、まさに貴重なんです。ですからこれらをパネルにしてサッチモハウスを訪れた人たちに披露したいそうです」（外山夫妻）

きっとこんな風に…「みなさん、この写真をよーくご覧になってくださいね。そう、この場所なんです。サッチモとル



④は佐藤氏撮影の「書齋でくつろぐサッチモ」、そして「ここなのよ！」と隣家のセルマおばさんが、同書齋でこの写真を手ににっこり。右端はコグスウェル館長 ⑤は、やはり佐藤氏撮影の「サッチモ」と愛用のトランペットを囲んで嬉しそうなビジターとサッチモハウス博物館スタッフ

シール夫人が、ここでこんなに打ち解けて、犬と戯れたりしていたんです。ここも当時と全く変わっていませんか？ここにいま、今皆さん方がいらっしやるんですよ」。

ほかに、これらの写真を絵はがきにして、来館者に記念品として販売したいという話もあるそうだ。

ところで、こんなこともあった。外山夫妻の写真集の出版に合わせて、冬青社が外山さんの写真展を開催することになり、佐藤氏の写真も当然、会場に展示されることになった。そこでどなたかに新たなプリントをお願いすることになったのだが、プロ中のプロでかつては同僚だった目羅氏をしても、「いやいや、とても佐藤さんのようには焼けませんよ」と“敬遠”されてしまい、会場に展示された作品は佐藤氏の“オリジナル”だったそうだ。

佐藤氏はのちに独自のラボ「ラボ・シャラク」を設立（1974年）した。これも夜学時代からの佐藤氏の夢だったに違いない。佐藤氏は、業界でも“伝説のプリンター”としても高く評価されていた。



佐藤氏は1995年（平成7年）12月24日逝去、享年56歳。

写真を受け取り大喜びのNYスタッフ 歓迎写真とメールが送られてきた！

＜サッチモハウスのビジター、スタッフと撮影した一枚…写真横のショーケースにはサッチモのトランペットが入っています。書齋での写真は、サッチモの生前からの隣人セルマ・ヘラルドさんが正装して撮影に参加してくれました。セルマさんが“ハロー”と言っていますよ！佐藤さんの写真、正に感激です。この写真のお陰で、私達のサッチモとルシール夫人についての知識が大きく拡がりました！＞（コグスウェル館長）

セルマさんは、私達をととても好いてくれていて、ツアーで行くと一緒にサッチモのお墓参りにもいってくれます。今回の佐藤さんのサッチモ・ポートレート寄贈の話を聞いて、写真に収まってくれました！サッチモハウスでは、ビジターの案内をするときに、このパネルをガイドに使う予定で、佐藤夫人もとてもお喜びです。故佐藤氏、そしてサッチモ翁も天国で喜んでいるでしょう！！

ハウスの準備段階では、会員、ジャズファンの皆様にも多大なご協力を頂きました！！深くお礼を申し上げます。2002年10月15日に立派にオープンを果たし、そして2011年にはハウスの正面に2、3階建てのビジターズ・センターもオープン予定です！！（外山喜雄）

DIXIELAND JAZZ JAMBOREE 2009

まさに“日本を代表する5デキシーバンド 夢の競演！！”（2009.1.25 日比谷公会堂）

まさに“日本を代表する5デキシーバンド 夢の競演！！”だった。2009年1月25日、東京は日比谷公会堂で開催された『DIXIELAND JAZZ JAMBOREE 2009～新春デキシランドジャズジャンボリー』（主催＝(株)日本音楽家協会）には、会場をびっしりと埋める約2000人のファンが詰めかけた。“デキシーの競演”とあって日本ルー・アームストロング協会(WJF=ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション)おなじみの会員さんの姿も多数見



受ける。午後3時、30人を超える出演者全員による壮大な『世界は日の出を待っている』で幕開け！ ここはやはり外山恵子さんら“バンジョー・グループ”の熱演が光る。そして、この日は5バンドに加えて大ベテランの北村英治さん

(cl)がスペシャルゲストとして出演。午後8時、やはり出演者全員が勢揃いし、『聖者の行進』に乗って会場をくまなくパレード、幕を閉じるまで延々5時間も“初夢”は続いたのでした。

(小泉良夫、写真も)

デキシーの“箸休め”に!?!と “大御所”北村英治さんも熱演

午前11時前から会場正面ホールでは、スタッフの皆さんがプログラムに7種類ものチラシやアンケート用紙を挟み込む仕事が始められていた。WJF会報『ワンダフルワールド通信』(カラー版56号)も主催者のご厚意で挟み込んでもらうことになり、当協会の奥村清文理事、渡辺研介さんが応援に駆けつけ大奮闘、開場と同時に今度は外山夫妻の著作、写真集、CDの販売にも回り、ファンを引き付けた。



憩をはさんで登場した北村英治さんの「皆さん、もうお疲れでしょう」の一言で会場がどっと沸く。「私は、ゆったりしたかわいい曲をお届けしましょう。まあ、箸休めのつもりで…」と『Alice Blue Gown』『夢のシャボン玉』など、ピアノの伴奏でゆったりと4曲を披露。

外山喜雄とデキシー・セインツには 水森亜土さんと美女ダンサー2人!

そして、外山喜雄とデキシー・セインツの登場！ 司会者が外山夫妻の活動をたっぷりと紹介してくれましたよ。メンバーは外山喜雄(tp,v)・恵子(p,bj)、鈴木孝二



この日の出演「5バンド」は、①有馬靖彦とデキシー・ジャイブ ②デキシー・キャッスル ③中川喜弘とデキシー・サミット ④外山喜雄とデキシー・セインツ ⑤菌田憲一とデキシー・キングス。そしてゲストに北村英治(cl) with 高浜和英(p)、デキシー・セインツと共演した水森亜土(vo)。司会は、TBS-TV「家族そろって歌合戦」などでおなじみの石尾和子さん。

午後3時、デキシー・ジャイブに始まってデキシー・キャッスル、デキシー・サミット…どのバンドも熱演に次ぐ熱演で2時間が瞬く間に過ぎ去ってしまう。15分の休



(cl)、粉川忠範(tb)、藤崎羊一(b)、そしてジミー・スミス(ds)。軽快な『Bourbon Street Parade』に始まり『Hello Dolly』、恵子さんのバンジョーによる『The World Is Waiting For The Sunrise』、ジミーさんのボーカルも加えた『Basin Street Blues』…と、来たところでスペシャルゲストの水森亜土さんが美女ダンサー2人を従えて登場。ステ



国際交流基金からの支援が決定！！

外山喜雄とデキシーセインツの旅 旅費、滞在費等の経費の一部補助

ことしも7月29日から8月8日まで、ニューオリンズ・NYサッチモの旅が開催されます。過去15年間にわたって日本ルイ・アームストロング協会の象徴的な活動として続けてきたニューオリンズの学校を訪問しての楽器プレゼントは、徐々に日本、ニューオリンズ双方のメディアに取り上げられ、現地からは、楽器や寄付金を贈ってくれた日本のジャズファンへの感謝の気持ちがどんどん高まっています。

こうして皆様のご支援を受け、続けている草の根交流ですが、経済的には大きなマイナスとなる状況がずっと続いてきていました。日米双方で認知され始めたこの活動に、何とか国際交流基金の援助をいただけないだろうかと四谷の基金本部を訪ねたのは昨年10月でした。

市民青少年交流助成プログラムに該当するとのご案内を受け、過去に掲載された日米のメディアの記事等多

数の資料をそろえ、該当するプログラムに応募したのが昨年11月末。このたびサッチモ・サマーフェストに参加、学校訪問、セミナー、地域住民との交流を予定する外山喜雄とデキシーセインツの、旅費、滞在費等の経費の一部補助として、国際交流基金の助成がめでたく決定しました！11月から数えてまる4ヵ月、半分諦めかけていたところへのこの通知でした…政府の予算案審議の遅れ？それとも、ねじれ国会の影響？と心配していましたが、よく説明書を読むと、もともと発表は4月だったようで、良い知らせを頂き心から喜んでいきます！！

国際交流基金ご関係者の皆様に深い感謝の念をお伝えするとともに、今年は政府のバックアップとお墨付きを得て、ますますスペシャルな旅にしなければと、決意を新たにしている次第です！！

会員の皆様の日頃のご支援、本当に有り難うございます！！

(外山喜雄・恵子)

(5面から続く)

ージに花が咲く。歌は『Cow Cow Boogie』『Minnie The Mucha』と続いて、なんと！『ヒミツのアッコちゃん』がでてきました。会場を埋めたファンは結構年輩の方も多かったので、この懐かしい曲のプレゼントに大喜び。客席との掛け合いも盛り上がる。

亡き藪田憲一さんに捧げて… 立川談志師匠も爆笑を誘う！

ここまでの4バンドが1974～75年の結成だが、しんがりとなったデキシー・キングスは歴史も古く1960年の結成。今は亡き藪田憲一さんと親交のあったという立川談志師匠(写真右)がステージに上がってあいさつ。「俺、ガンになっちゃってさ。耳も遠くなって、補聴器を付けたら“への音”がよく聞こえるようになった。なんかジャズと関係ねえなあ」とか、変なエールを送って爆笑を誘う。藪田さんの愛娘、市川文香さんがボーカルで彩りを添えた。北村さんが再登場して「藪田さんに捧げます」と『Memories Of You』。



時計は午後8時を回っている。よいよフィナーレ(写真左)。ステージにまたまた全員がのぼってきた。ここはもう『聖者の

行進』しかないでしょう。出演者がどっと客席に繰り出す。1階客席最後列まで回ってきて会場を沸かせる。

この企画の顧問を務めていた、おなじみのジャズ評論家、瀬川昌久さんにロビーでお会いしたが、瀬川さんは立てかけられていた大きな看板「BIG BAND FESTIVAL」(プログラムにもチラシが挟み込まれていましたね)を指さして、「来年は外山さんの“ビッグバンド”も出演しないといけませんねえ」と熱く語る。そう、あの昨年10月の例会“スイング・ザット・ミュージック”でお披露目された15人編成の「スペシャル・サッチモ・ビッグバンド」のこと。これは嬉しいお言葉でした。

CELEBRATE GEORGE AVAKIAN'S 90TH BIRTHDAY WITH THE MAN HIMSELF !!

アバキアンさん、90歳のお誕生日おめでとう！！

外山さんも日本から♪Happy Birthday to You…を奏でる



ジョージ・アバキアン氏の誕生日は、1919年3月15日。毎年3月ニューヨークのジャズクラブ、バードランドで氏の誕生パーティーが開催されるのが恒例となっている。今年、アバキアン氏は90歳！！毎年ニューオリンズで開催されるサッチモ・サマーフェストでは、ご神体の様な無くてはならない存在！！今でもエリントンやルイをコロンビア・レコードに録音した当時の思い出を、1時間も講演する元気さ！

今年2月7日には、レコーディング界における偉大な貢献でグラミー賞受賞の栄誉に輝いたばかり。

今年のパーティーは3月18日、誕生日の3日後に開催された。誕生パーティーの翌週はWBCの決勝だった。野球で日本が優勝するや否やその日の内に大の野球ファンの氏からメールが入った。「ブラボー！イチロー！おめでとう！！」

バードランドでの誕生パーティーには多くのジャズ関係者が出席し、サッチモ、エリントン、ファッツ・ワーラー…等、彼が愛するジャズのライブバンドによる演奏も行われた。幕開けに彼を愛する人々からのお祝いの言葉が読み上げられた。デイブ・ブルーベック、ソニー・ロリンズ、クインシー・ジョーンズ、そしてサッチモ楽団のクラリネット奏者だったジョー・ムラーニー…。会場のバードランドに詰めかけた有名人は、歌手トニー・ベネット、元ダウンビート編集長ダン・モーガンスターン、サッチモハウス博物館長マイケル・コグスウェル、メルセデス・エリントン…。出席者全員が、偉大なジャズマンのほとんどを録音しサポートしたジョージ・アバキアン氏の偉業に賞賛の拍手を送った！

ルイ、デューク、ブルーベック、ジミー・ラッシング、エディー・コンドン、エロル・ガーナー、ジョニー・マティス、ローリンズ、マイルス、ラビ・シャンカール…彼の素晴らしい経歴は、1939年に制作した世界初のアルバム形式のジャズレコード、デッカの『シカゴジャズ』に始まり、当時知られていなかったジャズ・クラシック(ルイのホット5、ホット7…ベッシー・スミス、ビックス・バイダーベック…)の再発売、そしてジャズ・フェスティバルの実況版を世界で初めてプロデュースしたのも彼の偉業だ。

この日の演奏を担当したのは、デイビッド・オスワルドの率いる、ルイ・アームストロング生誕100年記念バンド。

オスワルド(tuba)、ランディー・サンキ(tp)ワイフリフ・ゴードン(tb,vo)アナット・コーエン(cl)、マーク・シェーン(p)、ケビン・ドーン(ds)。

私(外山)もお祝いに駆けつけたかった！！せめてもと、サッチモをイメージした、バック・オ・タウン・ブルース風にソロのハッピー・バースデーを録音、歌もルイ、エンディングは1920年のウェザーバード・ラグ…を贈ったところ、当日会場のマイクを通し“日本からのメッセージ”として会場に流され大好評だったと言う。実は昨年も速いテンポの1920年代のサッチモ風のバースデーを贈り大好評、2年続けて日本からのお祝いメッセージとなった！

ジョージさん、おめでとうございます。今年もサッチモ・サマーフェストでお会いしましょう！

(写真は、いずれも誕生祝いパーティーを伝えるHPから)



毎年恒例の「MIYA JAZZ INN」でWJF会員の皆様にもすっかりおなじみの宇都宮がますますジャズで盛り上がっています。外山夫妻を迎えての、郷土出身サクソ奏者、渡辺貞夫さんを称える「ナベサダウィーク」、デキシーセインツのメンバーも加わった「ジャズの歴史コンサート」、そして「うつのみや・ジュニア・ジャズ・オーケストラ」(UJJO)の誕生と、1st コンサート！ その際、ニューオリンズ支援の募金運動まで実施しWJFへ。では、同郷の外山さんからのレポートです。

ナベサダさんの故郷“ジャズで街おこし”

外山さんも学んだ“郷土にジャズを！”

ナベサダさんの故郷として“ジャズで街おこしを！”と、ジャズに力を入れる宇都宮。私(外山喜雄)は、宇都宮市の愛隣幼稚園で歌と音楽の基礎を教わり、戸祭小学校、星ヶ丘中学校に通いました。“郷土にジャズを”という、うつのみやジャズの街委員会の呼びかけに答えて、ジャズの歴史をテーマにした講演コンサートをシリーズで開催してきました。

今年2月1日には、宇都宮で活躍するスイング・ハード・ジャズ・オーケストラのリーダー、トロンボーン奏者の吉原郷之典さんの企画で、ナベサダウィークに参加、夫婦2人でニューオリンズを語り、ジャズのルーツを実演と写真でたどる、楽しい講演を実現させました。

つづく2月14日には、デキシーセインツ=外山喜雄・恵子、鈴木孝二、粉川忠範、藤崎羊一、サバオ渡辺、池田なみ(vo) =で、楽しいジャズの歴史コンサートを開催。第1部では、ニューオリンズの教会音楽からキング・オリバー楽団時代、ホット5、初期のビッグバンド時代等、若き日のサッチモの演奏を楽しくたどりました。

第2部、「ジャズの発展とジャズスタイルの変遷」では、デキシーランドジャズ、スイングジャズ、ビッグバンド・ジャズ、モダンジャズ…と、ジャズスタイルの変遷をテーマに歴史をたどり、吉原さんの肝いりで宇都宮に誕生した「うつのみや・ジュニア・ジャズ・オーケストラ」がグレン・ミラーの『真珠の首飾り』、デューク・エリントンの『A列車で行こう』、ベニー・グッドマンの『シング・シング・シング』をオリジナル譜で演奏！！『シング・シング…』ではサバオ渡辺のドラムと共演！



いま、宇都宮が JAZZ で 外山夫妻とセインツも一役 若い小さなジャズメンから WJF に

そして、『A列車…』では、セインツ全員がジュニア・ジャズに入ってソロをとりました。

可愛いギャルたちからサイン攻め バレンタイン・チョコには胸キュン！

コンサートの日は丁度、バレンタインデー。終了後、メンバー達は、可愛いジャズガールズたちからサイン責めにあい、贈られたバレンタイン・チョコに囲まれて、胸キュン状態でした。

インターネット ユーチューブに掲載中の、ニューオリンズのテレビ出演映像と楽器プレゼント写真のURL



ホットに盛り上がっている！

J・ジャズ・オーケストラ誕生 ニューオリンズ救済基金も届く

(http://www.youtube.com/watch?v=gGDfYUa5sjw&feature=channel_page)をジュニア・ジャズの皆さんにお知らせしたところ、ジュニアジャズのメンバーの少年、少女達が、私たちのニューオリンズの子供達へ楽器を贈る活動を知り、彼らから自発的に、ファーストコンサートで寄付を集めたい！と申し出てくれたとのことでした。



1st コンサートは「350席が満席になりました。演奏もうまくできてお客様にも喜んでいただき大成功でした。舞台からジュニアの代表3人が自分たちの言葉でニューオリンズの子どもたちに楽器を贈るための募金を呼びかけ、閉演後募金箱を持って出口に立ちました。たくさんの方が募金に応じてくださり、合計41,231円が集まりました」とのこと。

そして、UJJO 父兄の方々からも温かいメールを沢山いただいております。

UJJO 保護者会長、坂本敏夫さんによると、この3月21日の

WJF からも記念品プレゼント みなさん、本当にありがとうございます！

感激の“若い小さなジャズメン達”の善意にお応えしてジュニア・ジャズのメンバー、指導スタッフ、父兄代表の皆さんに、2008年版ハリケーン支援バッジ、WJFのシール、WJF会報、そして若い諸君には、家にストックしてあった東京ディズニーランドの記念バッジ…を記念品としてお送りしました。ジュニア・ジャズの皆さんのますますのご発展を、お祈りします。そして、吉原さん、柴田さん、

父兄スタッフの皆様、おめでとうございます。

宇都宮の吉原さんのスインギン・ハード…と同じく、社会人ビッグバンド「ファンタイム・ビッグバンド」のメ

ンバーとして活動している笠原克信さん(tb)も、コンサート開催の度にニューオリンズ支援を呼びかけ、何度も義援金をおおくり下さっています。今回も寄金とメールを頂きました。

皆さん、ありがとうございました。

うつのみや・ジュニア・ジャズ・オーケストラ (UJJO)

平成18年(2006)9月、文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業の支援を受けて結成。同市内の中高生を中心に、県内各地から約30人の会員が毎週土曜日の午後1時~5時、吉原さん、WJF 会員の柴田昌夫さん(tp)らの指導で中央生涯学習センターホールを借りて練習を続けている。



サッチモちょっといい話 サッチモとティスニー ③

——外山喜雄

夢と魔法の王国を作ったティスニー ジャズの王様サッチモは似たもの同士

サッチモが他界したのは1971年7月6日、まだ69歳だった。サッチモが永遠のヒットソングとなる『この素晴らしき世界』を吹き込んだのは、他界する4年前の1967年、そして夢と魔法の世界を創ったウォルト・ディズニーの名曲を集めた『ディズニー・ソングス ザ・サッチモ・ウェイ』を吹き込んだのは亡くなる3年前の1968年だった。人々から親愛を込めて“ポップス”（親父さん）と呼ばれたサッチモの、愛の世界を代表する二つの企画が、亡くなるほんの少し前に実現したのは、私たちにとって、サッチモにとって、そして世界にとって、とても幸運だったと思う。

“サッチモが世界に残したメッセージ”ともとれる愛のアルバム、サッチモはどんな気持ちでこの吹き込みをしたのだろう。ルイ・アームストロングの晩年、サッチモが亡くなるまでオールスターズのクラリネット奏者をつとめたジョー・ムラーニーにこんなことを聞いたことがある。

「ポップスは、どんな気持ちで『ワンダフルワールド』や『ディズニーウェイ』を吹き込んだんだと思います？」

彼の答えはこうだった。

「世界を変えてやろうとか、そんな大それた気持ちじゃないさ。ただ人間、誰でも年をとって‘死’を考えるようになるとそうなるように、親父さんも愛とか、世界とか、そういうことを深く考えるようになったってことだと思うよ」

年を重ね愛と世界を深く考えた？ 自分の本分に忠実な“仕事人間”？

元コロンビア・レコードの大プロデューサー、ジョージ・アバキアン氏もこういう。

「初期のホット・ファイブやセブンは別にして、メジャーになってからサッチモが吹き込んだ数千曲の中で、自分がやりたいと主張して吹き込んだ曲は、自分の愛器だったセルマー社のラッパの広告のような曲『ラフティング・ルイ』ほか数曲しかないよ。あとは、皆マネージャーとレコード会社が決めて彼はその言うとおりにしただけさ」

肩すかしを食らうような答え。でも、以外とサッチモはそう

なのだ！！ 彼のこんな言葉がある。

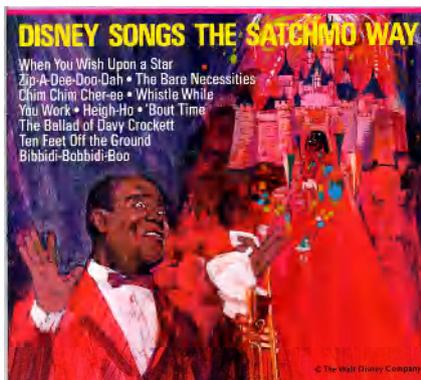
「自分の仕事は、歌って吹いて人を喜ばせること。自分は一番得意なことだけをやりたいんだ。他のことは人に任せてね」

自分の本分に忠実な“仕事人間”サッチモの姿が見えてくる。サッチモはあるインタビューでこう語っている。

「確かに私は色々な国へ行って、王様の前や法王の前でも演奏したさ…若くて駆け出しだったニューオリンズ時代に、私が将来こんな事になるなんて誰かに言われたら、怖じけずいてしまったと思うよ！ 私は大物になろうなんて思った事はない。ただ、目の前のお客さんに喜んでもらおうと毎日必死になってやってきただけさ。で、ある日、気が付いたらこうなっていただけなんだよ」

王様や法王様の前でも自然体 「お客さんさえ喜ばばいいのさ」

ついでこの間デビューしたような若いのが、自分のことを当たり前のように“アーティスト”と呼び、自分の曲を“作品”と呼ぶのが常識のようにになっている昨今、うう～ん…いや、好きだね、私はサッチモのこの姿勢。ただただ目の前の



『ディズニー・ソングス ザ・サッチモ・ウェイ』(PCCD-00011)から

お客さんを喜ばせようと思死になってン十年…気が付いたら法王様、王様の前でも演奏、アメリカの音楽大使にもなっていた。そんな経験を積み、世界観が広がり、そして老境に入ったサッチモに、世界への愛をテーマにしたような曲が“仕事”として舞い込み、世界的なヒットが生まれる。いや、なんたるこの自然体！！ 何度も言うけど、ホント好きですね、僕は、こういうの！！ サッチモのこの名言もどうぞ！

「私は、自分の出来ることをひけらかして自分の才能を証明しようなんて、思ったこともない、ただ、目の前にいる人々のためにグッド・ショーをしたかっただけさ。私の人生はいつも音楽だった。いつも音楽が最初。でも、音楽は一般の人々に理解されなければなんの価値もない。お客さんのために生きる、それがニューオリンズのオールドタイマー達から私が学んだ事さ。いつもこう言い聞かされたんだ、メロディーを大切につてね。“人々に喜んでもらうために”あなたがいるのだから…」 夢と魔法の王国、ディズニーランドを造ったディズニーとジャズの王様サッチモ。アメリカの20世紀を代表するこの二人の巨人は、何だか、すごく似た者同士のような気がする。

ジョージ・ルイスの名盤！！

廉価版CDで発売！

6月15日ユニバーサルから

“草の根ジャズ”の“名人”たち！ 魅力あふれる芸風がここに…

ジャズの故郷ニューオーリンズの音楽を代表するジャズマンは？と聞かれればレイ・アームストロングとジョージ・ルイスをあげる。ニューオーリンズの先駆者達のジャズのエッセンスをすべて吸収した大天才ルイスは1920年代北部へ行き、彼の演奏はすべて後のジャズの基礎となった。

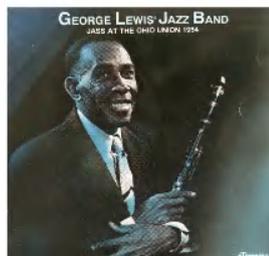
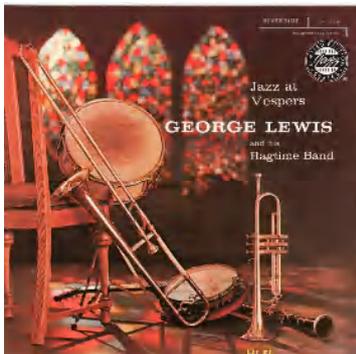
一方、サッチモを育てたニューオーリンズの黒人社会には、一生故郷を離れることなく無名なローカルなミュージシャンとして生き“草の根ジャズ”の魅力溢れる芸風を持つに至った“名人”達も多かった。

クラリネットのジョージ・ルイスと彼の楽団のメンバーは、そんな“土の香り”のする“ジャズの名人”達の集まりだ。その演奏には土着のジャズのスイング感、土着のブルース・フィーリングが溢れている。1940年前後にジャズの歴史が関心を呼び、最初にジャズを吹いたジャズ王バディー・ボールデンへの興味が高まった。

“幻のジャズマン”バンク・ジョンソン 南部のサトウキビ畑から“発掘”！

バディーは他界していたが同世代のトランペッター、バンク・ジョンソンが南部のサトウキビ畑の労務者をしているところを発見され“幻のジャズマン”としてカムバック。このときサイドマンに選ばれたのがジョージとその仲間達。この偶然がきっかけとなりジョージの音楽が人々の注目を呼び1950年代ニューオーリンズを代表するジャズマンとして有名になっていく。

そんな草の根のニューオーリンズ・ミュージックの代表ジョージ・ルイスの名盤が 1100 円と言う嬉しい廉価版



ジョージ・ルイス
『Jazz at the Ohio Union』
(STCD 6020/21)のジャケット写真から

CDとして日本のユニバーサル・クラシック&ジャズから発売される。

ニューオーリンズの黒人教会音楽の影響をそのプレイにもにじませるジョージの名盤中の名盤と言われるのが、1954年オハイオ州の教会でのコンサートを収録した“ジャズ・アット・ヴェスパーズ(夕べの祈りのジャズ)”。教会の残響の多い音響とジョージのクラの祈りにも似たフィーリング、ミュート(弱音器)をつけたホーンのかもしたす敬虔なこのニューオーリンズ・ジャズ・ライブを、一生の名盤にあげる人も多い。

同時にもう一枚、ユニバーサルから『ジョージ・ルイス・In Classic New Orleans Tradition』も廉価版で発売。CD店にてお求め下さい。

ヴェスパーとオハイオユニオンでローレンス・マレローが弾いていたバンジョーは、外山恵子が1968年マレロー夫人から譲り受け、現在も日本ですてきな音を奏でている。

Jazz at Vespers

George Lewis & his Ragtime Band

スイング・ジャズがブームだった1940年頃、ジャズのルーツへの関心が高まった。1900年頃初めてジャズを吹いたジャズ王バディー・ボールデンはすでに死去し、同時代の“伝説”トランペッターのバンク・ジョンソンがサトウキビ畑の労務者をしているところを発見されカムバック、彼のバンドメンバーに選ばれたことで、それまで全く無名だったニューオーリンズのローカルなクラリネット奏者、ジョージ・ルイスの音楽の魅力を世界が知ることとなった。譜面もほとんど読めず楽器は独学、肉体労働をしながらジャズを演奏してきた彼と仲間達が生み出す“草の根ジャズ”は、独特の荒々しいスイング感とブルース・フィーリングに溢れていた。そしてジャズを生んだ黒人教会の伝統を感じさせ訴えかけてくる“美しいハート”が世界の多くのジャズファンの心をとらえたのだ！

Jazz at Vespers…夕べの祈りのジャズ、と題されたこのアルバムは、題名の通り1954年2月21日夕、オハイオ州の教会で行われた“教会コンサート”のライブ盤。教会の心地よい残響、ジョージの心に訴えかけるフィーリング、ミュート(弱音器)をつけたホーンの音と絶妙なスイング感が心にしみ通る“名盤中の名盤”として有名。この盤を“人生の一枚”にあげるジャズファンも多い。ジャズのルーツはニューオーリンズの黒人教会にある。聖者の行進もダウン・バイ・ザ・リバーサイドも黒人教会の音楽、…当時の粗末な録音機材を考える時、ジャズの故郷の楽団の教会コンサートをこのような至上のサウンドでとらえた“Jazz at Vespers”が後世に残されたことは、奇跡に近い出来事の様にも思える。

ジョージ・ルイスと彼のラグタイムバンドメンバーはジョージ・ルイス(cl)、キッド・ハーワード(tp,vo)、ジム・ロビンソン(tb)、アルトン・パーネル(p)、ローレンス・マレロー(bj)、スロウドラグ・パバジョー(b)、ジョー・ワトキンス(drm,vo)。この年の翌月54年3月には、同じく幻の名盤として名高いJazz at the Ohio Unionの名演が残され、共にジョージの黄金時代を代表する演奏だ。

(ヴェスパーズのCDライナーノート=外山喜雄=から)

◆昨年ジョージ・ルイスの伝記も発売された◆
『CALL HIM GEORGE ジョージ・ルイス』(ドロシー・テイト著・小中セツ子訳=SOLITON CORPORATION刊)。
WJF会員の岡本節夫さんが本に感激し、販売をお手伝い協力していらっしゃいます。2100円+税105円、送料400円
お問い合わせ:(株)光栄堂 岡本節夫
電話:047-425-8411 FAX:047-425-8445

恵比寿で10年目を迎える「第29回サッチモ祭」

TOKYO NEW ORLEANS JAZZ FESTIVAL

7月20日(月、祝) 今年もアメリカ大使館後援で盛大に開催!

サッチモ没10年目にあつた1981年(昭和56年)、WJF会員の肥後崎英二さん(当時「大丸」勤務)の熱意あふれるご協力をいただき第1回目を開催した『サッチモ祭』は、東京駅大丸屋上、日本橋東急屋上、ヤマハホール、再び大丸屋上、そして2001年からは、サッポロビールのご好意で恵比寿ガーデンプレイス、サッポロビール恵比寿麦酒記念館「銅釜広場」で開催、歴史を重ねてきました。

“サッチモの夏”恒例となったこのイベントは、今年で29回目。恵比寿ガーデンプレイスでの開催は、記念すべき10年目を迎えることになりました!

そして、来年2010年はいよいよ“サッチモ祭30周年記念!!”。会員、ジャズファンの皆様の中には、初回の大丸屋上から

皆勤…という方もきっといらっしゃるでしょう。30年になろうとする歴史に懐かしく想いをはせる方も多いと思います!

今年もサッチモ祭は、永年のニューオリンズの子供達へ楽器を贈る活動や、ハリケーン被災の支援が認められ、“アメリカ大使館後援”をいただくこととなりました! 毎年ご参加いただく皆様、ご協力いただく皆様の応援に支えられ、開催を重ねることができることを、日本ルイ・アームストロング協会スタッフ一同心よりお礼申し上げます!



す。



2009年7月20日(月、祝)
12:00~19:30
恵比寿麦酒記念館「銅釜広場」
(恵比寿ガーデンプレイス)
入場無料

- ◆出演: 外山喜雄とデキシシーセインツ
外山喜雄(tp,vo)・恵子(pf,bj)
鈴木孝二(cl)、粉川忠範(tb)
藤崎羊一(b)
- ◆特別ゲスト: ジミー・スミス(ds,vo)

- ◆出演: キャナル・ストリート・ジャズ・バンド、ザ・サーフサイド・ストンプ、セカンドライナーズ、大丸リユニオン・ジャズメン、デキシシー・ドラムカーズ、デキシシー・ダンディーズ、デキシシー・ショーケース、ドクター・デキシシーセインツ、ナッチェス・ジャズバンド、ニューオリンズ・ジャズハウズ、ニューオリンズ・ノーティーズ、ハイタイム・ローラーズ、バンジョーストンプーズ、ラグピッカーズ、早稲田大学ニューオルリンズ・ジャズ・クラブ(五十音順)

◆司会: 山口義憲、飯塚さち子、外山恵子



「大丸リユニオン・ジャズメン」のメンバーとしても例年参加している肥後崎さん(写真左のトランペッター)=07年の「サッチモ祭」で

主催: 日本ルイ・アームストロング協会
協賛: 恵比寿麦酒記念館
(有)ノラミュージック
後援: アメリカ大使館
協力: サッポロビール株式会社
サッポロ飲料株式会社
お問い合わせは:
日本ルイ・アームストロング協会
047-351-4464

ぜひ、今年も皆様のご参加、ご来場をお待ちしております!!

日本レイ・アームストロング協会設立15周年記念

<感謝の集い>のご案内

外山喜雄・恵子夫妻率いる日本レイ・アームストロング協会がこの7月、1994年の設立以来、15周年を迎えます。そこで皆様へのお礼の気持ちを込めて下記のとおり、<感謝の集い>を催すことになりました。

併せて、昨年夏の発刊以来、大好評をいただいている外山夫妻共著の



ジョン・ブルーニースとニューオーリンズ・オールスターズを迎えての第1回「設立総会」から

写真集『聖地ニューオーリンズ 聖者レイ・アームストロング』（冬青社刊）が発刊1年を迎えます。さらに今年29回を迎える恒例の「サッチモ祭」は“恵比寿開催10周年”です。

そういえば、2005年（平成17年）8月、WJF が「外務大臣表彰」を受け、現地ニューオーリンズの日本総領事館で、外山夫妻が坂戸勝総領事（当時）から表彰状の伝達を受けたことなど、このお祝いも、なぜか延び延びになっていました。

この際、いろいろとおめでたい記念日を何から何ま

ですべてひっくるめてお祝いしてしましましょう。真夏の夜、皆様方とともに外山喜雄とデキシシー・セインツ

はじめ、飛び入り

のミュージシャンの方々の演奏を楽しみながら、美味しいビールのジョッキを傾けていただければ幸甚です。

暑い最中、また何かとご多忙とは思いますが、この場を借りて、ご案内状をお送りしていない、皆様方にも、ぜひご参加いただきたく、ご案内いたします。



記

◎日時：7月12日（日）午後5時～同7時30分
（受付開始 午後4時30分）

◎場所：上野精養軒 3階「桜の間」（JR 上野駅「公園口」下車、徒歩3分）

◎会費：1万円（特製絵はがき付きのご夫妻サイン入り写真集ご希望の方は、別途2000円）
6月12日（金）までにお申し込みください。

ふるさとのジャズ交流祭 in 斑尾 2009

8月の斑尾は全国から集まったジャズファンの熱気でジャズ一色に染まります。

野外ジャズフェスの発祥の地に20バンド以上のグループが集結して、2日間演奏が続き、日頃の練習の成果を爆発させるのです。その演奏は、高原の大地を揺るがし、浸み込み、故郷の山に消えてゆく…。高原を渡る風にのるジャズのリズムは、こども故郷の森に響きわたることでしょう。

ステージを中心に、スキー場、ホテル群、ペンション村、交流会場の「山の家」、レストラ



ン街、それらを取り巻く大自然は、すべて斑尾ミュウジウムを構成しているのです。

参加する演奏家、その家族、観客、舞台を支える専門家、ボランティア、宿泊施設の人々…この日、みんながそこで一体になっていきます。

私たちのWJFも支援しており、理事で会報の編集長、山口義憲さんが当日の司会を担当し、ステージを盛り上げます！！

WJF のみなさんのおいでも待ってまーす！！

主催：ふるさとのジャズ交流祭実行委員会

日時：平成21年8月22日（土）～23日（日） 場所：新潟県・長野県 斑尾高原 特設野外ステージ

事務局：〒389-2257 長野県飯山市斑尾高原 斑尾エルムペンション

TEL:0269-64-3505 FAX:0269-64-3630

WJF スタッフ 体当たり体験ツアー ニュー・オルリンズへ一人旅 第2弾 “復興の足音を感じた旅”①

(写真と文・渡辺研介)



人生3度目の海外旅行！ ついこの間まで連載して頂いた初めてのニュー・オルリンズ旅行。2度目は同じ年の夏。3回目は昨年の暮れから今年の正月にかけて。いずれもニュー・オルリンズへの一人旅。その日の思いつきで街中を散歩したり路面電車でフレンチ・クォーターの外まで出かけてみたり…。毎晩トラディショナル・ジャズを演ってるし、ご飯はおいしいし…。何度行っても飽きることはありません。

シーフード店「フェリックス」が再開 プリザベーション・ホールも全開！

フライトはワシントン DC のダレス空港経由。空港の様子も分かっているシカゴ経由の United 便は、シカゴ～ニュー・オルリンズの国内便が減便されてしまったそうで到着が現地時間で夜の10時過ぎ。ホテルに着くころにはレストランもライブもほとんど終わっています。旅行代理店のお兄さんに、「とにかく安く早く着く便を探して下さい」とお願いしたらワシントンまで ANA、ワシントン～N.O.は United という便。ワシントンでは、早速ターミナル移動のバスにデジカメを忘れてくるという大失敗…。でも、ANAの係員さんが届けてくれて無事N.O.行きの国内便に搭乘(汗)。3時間ほどでN.O.到着です。暗くなるのが早いこの季節なのにまだ明るい時間にホテルにチェックイン。早速フレンチ・クォーターを散歩。最初に来たときよりも確実にストリート・ミュージシャンが増えていきます。夕飯は過去2回ともハリケーン後に閉店していたシーフードで有名なフェリックス。今回初めて再開していました。メニューはせっかくですから生のオイスター。ジャンバラヤもとってしまし



開演前のプリザベーション・ホール

た。

夜はもちろんプリザベーション・ホールへ。過去2回は週末の3日間ぐらしかオープンしていなかったのですが、今回は毎日オープンの無休。暮れとお正月だけお休みだったかな。町が少しずつ活気を取り戻しているようでなん



だかうれしくなってきました。この日はクラリネットがオレンジ・ケリンさん(写真左)でした。外山さんにお世話になっていることを話すと「僕も8月に彼にあったよ」と喜んで下さいました。

ジャンヌ・ダルク・カトリック教会で ゴスペルの雰囲気もたっぴいと…

2日目は現地時間で12/28日曜日です。ゴスペルの礼拝を見に St.チャールズ・ストリートの路面電車に乗ってジャンヌ・ダルク・カトリック教会(St. Joan of Arc Catholic Church)に行ってみました。この教会、初めてN.O.に来たときにガイドをお願いしたローボック美貴さんに連れてきて頂いたのですが、時間が早すぎて礼拝開始まで1時間。急遽予定を変更して別の教会に案内して頂いたのです。

そのときご一緒した現地ご在住の美貴さんのお友達から、僕の帰国後に改めてジャンヌ・ダルク・カトリック教会の礼拝を見てきてとてもよかったというレポートを頂いていたのです。今回はぜひ行ってみようと思っただけで出発前からネットで住所などを確認。日曜日の朝は早起きして観光案内所へ。でも観光客はほとんど訪れることのない教会だったようで案内所の係の方もご存じなく、

地図で場所を調べてくれました。

St.オーガスチン教会ならばホテルからも徒歩圏内ですが、ちょっと治安に不安のあるトレメ地区。ジャンヌ・ダルク・カトリック教会はリバー・バンドのちょっと先あたりなので少しはましかなあ…。途中、わざわざ車を停めて道を教えてくれた親切な通りがかりのおばさんのお陰もあって無事教会に到着。ちょうど地元の人たちが集まり始めたところ

ろでした。入り口で水に指先を浸して十字を切るのが教会に入るときのお作法のようです。観光客相手のゴスペル・ショーではないので牧師さん(カトリックだから神父さん?)のお説教が延々と続き(英語なので内容は全く不明)、合間にゴスペル聖歌隊のコーラス。でも古いスタイルのゴスペルの雰囲気色が濃く残っていて、うーんこれがニュー・オーリンズ・ジャズの源のひとつか・・・ととっても納得。何よりもショーではなくて、地元の人々の信仰や生活に深く入り込んだ素朴な音楽に直接触れられるのが感動的です。



ジャンヌ・ダルク・カトリック教会

どこ? テューレーン大学ジャズ資料館 路面電車が復旧して初めて乗車

帰りはあえて路面電車に乗らずに徒歩で St.チャールズ・ストリートを途中まで。そう、ジャズ資料館で有名なテューレーン大学が途中にあるのです。クリスマス～お正月の時期の日曜日だったのでキャンパスには人影もなく、間口はそれほどでもないのですが奥行きが広い広大な敷地。どこにジャズ資料館があるのか見当もつかないので今日は記念撮影のみ(まあ、所蔵されている資料も膨大なので何かテーマを絞って見に行かないと、1日じゃどうしようもないと思います)。

ここから路面電車でフレンチ・クォーターへ。実は過去2回の滞在ではこの路線もハリケーンの影響で運休したままだったようなのですが、今回初めて乗ることができました。

昼食はオイスター・ハウスにてガンボ。ホテルに戻って時差ぼけ解消のため昼寝。夕方近くに目覚めて部屋のド

アに鍵をかけて共用のバルコニーへ。今回の部屋はチャータレス・ストリートに面しています。右手の並びに大聖堂。大聖堂前で歌っているストリート・ミュージシャンのブルースが聞こえてくる絶好のロケーションです。

ご機嫌のストリート・ミュージシャン ライブハウスもたっぷり夜中まで...

夕飯はパット・オブライエンでレモンソースのパスタ。前回来たときに食べてみてお気に入りになったメニューです。場所はその昔、外山さんがお住まいだったアパートの1階。最初に来たときはハリケーンの影響でレストランは閉店。



ロイヤルストリートのストリート・ミュージシャン

中庭でカクテル・バーとして営業していましたが、前回夏に来たときからレストランも再開していました。このお店の St.ピータス・ストリート側の出口からすぐのところがブリザヴェーション・ホール。お店の出入り口を開演前の行列が横切っています。今日のバンド、ベーシストは日本の方でした。ピアノは初めて N.O.に来たときからお気に入りのジョン・ロイエン氏。終演後、メイソン・バーボンにハシゴ。前回までは11時ごろには、こういったライブハウスも終わっていたのですが、今回はたっぷり夜中の1時まで演奏していました。

(次の会報「59号」は WJF15周年特集となりますので、連載②は「60号」で続けます)

スイングジャーナル5月号(4月20日発売)でグラビア大特集

ルイ・アームストロングとニューオーリンズ・ジャズの継承に全精力を注ぐ日本ルイ・アームストロング協会と外山喜雄、恵子の活動が6頁グラビアで大特集されています!!
是非ご覧頂ければ幸いです。

NHK BS-2 放送のお知らせ!!

どれみふぁワンダーランド ホスト:宮川彬良 ミニ・ドキュメンタリー「匠の技」
ルイ・アームストロングの世界とデキシーランド・ジャズを追求するトランペッター、外山喜雄と、デキシーセイ
ンツの楽しい音楽の舞台裏が放送されます。NHK BS2 5月23日(土)20時~21時予定

ご寄付と嬉しいお手紙

ありがとうございます！！

岡山恵美様(豊島区)トランペットとご寄付5000円

近藤 薫様 アルトサククス

篠原 條様(香取市) コルネット2本

松本圭市様(文京区) コルネット

◆3月、川崎市の東芝科学館で開催したコンサートにご来場下さり、コーンのコルネットをご寄付頂きました。コンサートの中でご紹介し、頂いた楽器で1曲演奏しました。ルイ・アームストロングが若い頃に吹いたのでは…と思われるようなアンティークのコルネット！松本さんは、別名ポテトヘッド。サッチモの大ファンでこれまでもニューヨーク、ブッシャー等サッチモも昔吹いていたアンティークの楽器をご寄付いただいています！

また、「東芝科学館」でのコンサートには、素晴らしい社会人ビッグバンドとして知られる東芝ライドオン・オーケストラのリーダーで、2005年にニューオリンズがカトリナの大被害を被った際、ライドオンのコンサートで寄付を呼びかけてくださった、森慶一郎さん(as)もご来場下さり、セインツのジャズを心より楽しんでくださいました。

ニューオリンズ支援のご寄付をいただきました

青木文子様(宇都宮市) 10000円

矢澤廣子様(長野市) 30000円

◆冬青社から出版された写真集『聖地ニューオリンズ 聖者ルイ・アームストロング』の素晴らしい印刷を担当して下さったのは、長野市の矢沢印刷株式会社。写真集に載っていたサッチモの笑顔の表情が、10年前に亡くなられたご主人の笑顔にそっくりなのにビックリ、感激された現女性社長の矢澤廣子さんが、大のジャズファンだった故矢澤直房さんを偲んで、外山喜雄とデキシーセインツを長野へ招き、ご主人の10回忌をかねてコンサートを開催。コンサート会場は同社の印刷場。1機数千万円の名機と言われる高級印刷機、ハイデルベルグが3-4台ならぶ印刷工場は超満員。冬青社社長の高橋国博さんも東京から駆けつけ、長野の人気DJで、先のサッチモ1935-45スイング・ザット・ミュージックの司会を務めていただいた武田徹ご夫妻も来場、急遽このコンサートの司会も努めてもらい、人気司会者の登場でコンサートは大いに盛り上がった。印刷所でのユニークなコンサートには、経験豊富なドラムのジミー・スミスさんもビックリ！最初こそ「どこで演るんだ」と怪訝そうだった顔が上機嫌に…「うん！こんなユニークなコンサートは初めてだった！」と大喜び。来場の皆さんには、写真集から選んだ特製ニューオリンズ写真のポストカード・セットが記念品として配られ、次の挨拶状が同封されていた。

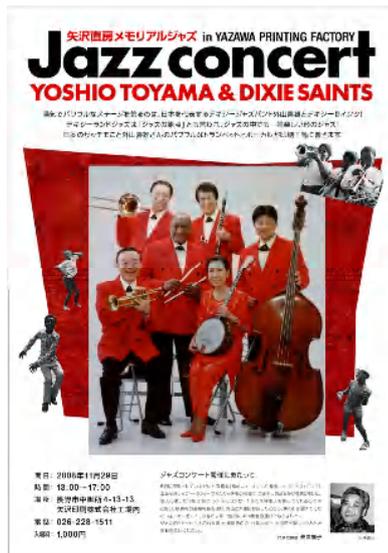
くすばらしいデキシーランドジャズを堪能して頂けましたでしょうか。本日の記念にポストカードをご用意致しました。またいつの日かこのようなジャズコンサートをできるような矢沢印刷に行きたいと思えます。本日はまことに有りがとうございました。 矢澤廣子>

コンサートにあたり、ニューオリンズに3万円のご寄付を頂きました。また、『聖地ニューオリンズ 聖者ルイ・アームストロング』から選りすぐった特選ポストカード8枚セットを、多数ご寄贈頂きました。今年は日本ルイ・アームストロング協会15周年にあたります。記念パーティー等の機会に会員の皆様に贈呈させていただきたいと思えます。

◆宇都宮市教育委員会文化課青少年音楽課から「うつのみやジュニアジャズ・オーケストラ」の皆さんの、3月21日の1stコンサートでのニューオリンズ募金 41,231円

◆笠原克信さん(杉並区)の

所属されている Fun Time Big Band の3月21日のコンサート会場でのニューオリンズ募金 17,600円



WJF会員募集中!

♪ジャズを愛する皆様

どうか会員になって下さい!!

また皆様のお知り合いの方々に

ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい!

= WJF年会費 =

- 一般会員(General Membership) ¥6,000
- 学生会員(Student Membership) ¥3,000
- 賛助会員(Friends of Louis Armstrong) ¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京UFJ銀行浦安駅前支店

普通：5175119「ワンダフルワールド」

お問い合わせは：WJF事務局

TEL：047-351-4464

Fax：047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン：Yahoo,Google で

ルイ・アームストロング

編集長から

日本ルイ・アームストロング協会設立15周年、サッチモ祭が恵比寿で開催されて10年、サッチモ祭は来年30周年。▼当協会主催のニューオリンズツアーが国際交流基金から援助を受けるなど嬉しいことが重なって、7月12日(日)、上野精養軒でお祝のパーティー開催が決まりました。皆様と会場と一緒に慶びたいと願っています。▼「長生きも芸のうち」と言ったのは先代の桂文楽師匠。「継続は力なり」とはよく耳にする言葉ですが、当協会の15年間を振り返ると感慨深いものがあります。▼例会でのサッチモをとりまく様々なジャズの再現に感激し、ニューオリンズの子供たちへの楽器プレゼント&ハリケーン支援、世界のジャズファンとの交流、WJFを通じての素晴らしい経験を皆様とご一緒させていたできましたことに感謝です(山)